

平成14年3月17日

## 千登世橋中学校落成式

「学ぶ」、「生活する」、「地域で使う」

本日17日、豊島区立千登世橋中学校（目白1-1-1 校長：塩田 壽久<sup>としひさ</sup>）の新校舎が完成し、落成式が行われた。豊島区で新しい校舎が建設されたのは27年ぶり。新校舎は、次代を担う生徒達に豊かな学習環境を提供するとともに地域社会に開かれた場となることを目指している。また、本年4月から実施される新学習指導要領をにらみ、情報教育の核となるゾーンも設置した。

豊島区においても少子化の進行や人口の流出などを背景に、児童・生徒数は減少を続けている。区教育委員会は平成9年1月に策定した「豊島区立小・中学校の適正化 第一次整備計画」（平成13年9月改定）に基づき、平成11年度から順次統合を進めてきた。千登世橋中学校も、高田中学校（目白1-1-1 昭和22年創立）と雑司谷中学校（南池袋3-18-12 昭和24年創立）を統合して、平成11年4月に開校したもので、今年度までは旧雑司谷中学校跡を仮校舎として利用しながら旧高田中学校跡に新校舎の建設を進めていた。12年7月からの建設工事がようやく終了し、このほど新校舎が完成した。14年度からは新校舎で授業を開始する。

新校舎は、公募型プロポーザル方式によって設計者を選定し、これからの社会を担う生徒達がその人間形成を図る上で大切な3年間を過ごすのにふさわしい教育環境の実現をめざして「時代にふさわしい柔軟な教育環境を提供する」、「豊かな学校生活を実感できる生活環境を提供する」、「地域とともに暮らす施設環境を提供する」という3つ方針に基づいて設計されている。

「学び」、「生活」する場である普通教室は70㎡と広くとり、教室と教室の間には吹抜の「風と光の道」を設置して快適な学習空間を創出した。各階フロアには、普通教室サイズの多目的ルームを設置し、合同学習、グループ学習の他、休み時間の憩いの場、交流の場として活用する。校舎の中央には、交流、集会、学校行事等の場として活用できる「中庭」も配置した。情報教育の核となるゾーンとして、コンピューター室を図書室と隣接して配置し、情報センターやメディアセンターとして一体活用できるようにした。「地域で使う」場としては、地域の人々が気軽に学校を訪れ、生涯学習や生涯スポーツ活動を行うことができるよう体育館、武道場、会議室を集中させた「地域開放ゾーン」を設けている。

また、環境教育の一環として、敷地北側の緑地面を保全して水辺、緑地を整備し、鳥類、昆虫等の生息空間（学校ビオトープ）を創出した。校舎棟地下には雨水貯留槽を設け、トイレの洗浄に利用する。他にも屋上の一部緑化や太陽光発電による屋外照明灯の設置など自然環境に配慮したつくりとなっている。

午前10時に高野之夫豊島区長や生徒代表2名らによるソメイヨシノの植樹が行われ、その後10時30分から校内の体育館で式典が行われた。式典には生徒代表30名をはじめPTAや地域住民などおよそ300人が参加した。高野区長は生徒らに向けて、「皆さんはこの校舎で学ぶ最初の生徒になります。一生懸命勉強することはもちろんですが、友達や地域の方々とも交流を深めてください。皆さんがいつかお父さん、お母さんになり、子どもと一緒に今日植樹した桜を眺めている姿を想像すると非常に楽しみです。」とメッセージを送った。式典終了後、招待者や生徒らは新校舎の見学を行った。生徒らは、太陽の光にあふれた教室の中で、「学校とは思えない素敵な空間。早くこの教室で勉強したい。」と語っていた。

〈施設概要〉

敷地面積：11,969㎡ 建築面積：3,800㎡ 延床面積：8,160㎡

構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造5階